

[005]鷹・鷹場・環境研究

<https://hdl.handle.net/2324/4377862>

出版情報：鷹・鷹場・環境研究. 5, 2021-03-20. Faculty of Art and Science, Kyushu University
バージョン：
権利関係：

〔編集後記〕

『鷹・鷹場・環境研究』5号をお届けいたします。本号では、研究会メンバーから計4本の論文を掲載することができました。また、本研究会の成果を一般に向けて発信するべく企画した『鷹狩の日本史』（勉誠出版、2021年2月刊）のなかから、通史編と各論の一部を「特集」として英文翻訳しました。国際社会に向けて、研究成果を発信できたことは大きな飛躍になったと思います。

さて、本科研は最終年度の5年目を終えました。この間の研究の進展には、自画自賛ながら目をみはるものがあったと自負しています。そこで、研究を継続的に発展させるべく、2019年秋に科研Aの前年度申請を試みましたが、「研究内容の格段の飛躍が求められる」との理由で継続申請が認められませんでした。鷹狩文化の国際比較を新たな課題として提唱したつもりでしたが、共感を得られなかったのは残念です。研究代表者の非力ゆえですが、ここで研究会をひとたび解散し、一から出直すことにいたしました。とはいえ、この5年間に本研究会が蒔いた種は地中に根付き、大きく花開いてくれるものと確信しております。若い世代が新たな研究会を組織し、格段に飛躍した研究へと発展させてくれることを願っています。

振り返れば、本当に充実した5年間でした。研究会のメンバー、およびフィールドワーク先での協力者に心よりお礼を申し上げます。相馬拓也さんに率いられてモンゴル調査に出かけ、アブダビでハヤブサ中心の鷹狩文化を体験し、朝鮮大鷹の雄姿を目の当たりにした経験は忘れられません。心残りは、COVID-19により、2020年度秋に予定されていた新潟県長岡市での市民向けシンポジウム（10月31日土曜を予定）が開催できなかったことです。しかしながら、その予算を本号の特集として英文翻訳に振り替え、世界に向けて日本の鷹狩文化の学術知を発信することができたことを前向きに捉えたいと思います。よって、『鷹・鷹場・環境研究』は本号をもって廃刊となりますが、これまで研究会の活動にご支援をいただいた皆様に、衷心より感謝を申し上げます。本当にありがとうございました（研究代表：福田千鶴）。

鷹・鷹場・環境研究 Vol.5 2021年3月20日発行

編集 鷹・鷹場・環境研究会（代表：福田 千鶴）

〒819-0395 福岡県福岡市西区元岡744

九州大学基幹教育院福田研究室 Phone: (092) 802-6019

発行 九州大学基幹教育院

印刷 (株) ミドリ印刷

〒812-0016 福岡市博多区博多駅南6-17-12 Phone: (092) 292-0300 (代表)

The Journal of Hawks, Hawking Grounds, and Environment Studies Vol.5

Published in March 20, 2021

Edited by the Society of Hawks, Hawking Grounds, and Environment Studies

Office: 3404, Faculty of Arts and Science, Kyushu University

744, Motooka, Nishi-ku, Fukuoka, 819-0395, Japan

E-mail: fukuda.c@artsci.kyushu-u.ac.jp Phone: +81 92-802-6019